

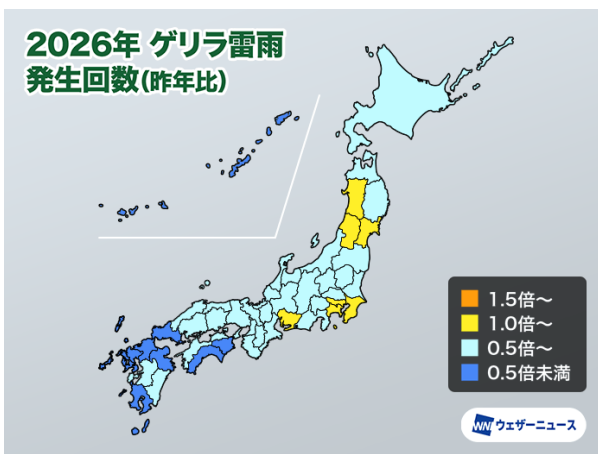
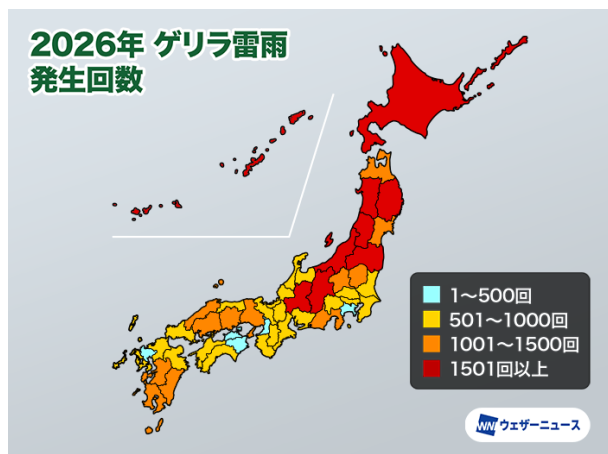
2026 年 10 月 21 日

ウェザーニューズ、2026 年のゲリラ雷雨の発生回数と特徴を発表
今夏のゲリラ雷雨は全国約 5.7 万回と前年比大幅減 8 月の千葉は 2 倍以上に
～西日本・北海道は高気圧で抑制も、東日本は局地的な豪雨被害が相次ぐ～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、2026 年夏のゲリラ雷雨(注 1)の発生回数やピーク、特徴などを発表しました。今夏のゲリラ雷雨発生回数は全国で 56,760 回となり、2025 年(88,100 回)と比較して減少しました。一方で、関東南部では昨年を上回り、特に 8 月の千葉県は 2025 年の 2 倍以上を記録しました。発生ピークは 8 月下旬で、東日本を中心に湿った空気や上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定な日が続きました。

2026 年のゲリラ雷雨は全国で約 5.7 万回	ウェブ版プレスリリース(画像のダウンロードはこちら)
https://weathernews.jp/news/202610/200221/	https://jp.weathernews.com/news/57840/

◆ 発生回数:全国で合計 56,760 回発生



2026 年の夏(7 月 1 日～9 月 30 日)における全国のゲリラ雷雨の発生回数は合計 56,760 回で、2025 年(88,100 回)と比べると約 0.6 倍となり、減少しました。都道府県別の発生回数を 2025 年と比べてみると、北海道や西日本、南西諸島で顕著に減少しています。一方、関東南部や東北は 2025 年並み～多くなりました。

2026 年は勢力の強い太平洋高気圧が西日本や南西諸島を覆い、オホーツク海高気圧も北海道付近に中心を持つことが多く、ゲリラ雷雨の発生回数が抑えられました。一方で、高気圧と高気圧の間に挟まれた東日本には湿った空気が流れ込みやすく、ゲリラ雷雨の発生回数が多くなりました。

ゲリラ雷雨の発生回数は、佐賀県で 255 回(2025 年 1,024 回)、次いで長崎県の 675 回(2025 年 2,468 回)となりました。それぞれの県は昨年と比べておよそ 0.25 倍です。東京都は 943 回(2025 年 770 回)、神奈川県は 454 回(2025 年 292 回)と 2025 年よりも発生回数が多くなりました。8 月の千葉県では 495 回発生しており、これは 2025 年の 221 回と比べて 2 倍以上の発生回数です。

2026 年 7 月 1 日に発表した「ゲリラ雷雨傾向 2026」(※1)では、全国でおよそ 11 万回発生する予想としており、予想より大きく下回りました。月別で見ると、当初発生ピークになると見ていた 8 月中旬の発生回数が、全国的に大きく下回りました。これは、太平洋高気圧やオホーツク海高気圧の勢力が予想より強く、西日本や北海道を中心に高気圧に覆われていたためゲリラ雷雨の発生が抑えられたことが挙げられます。また、9 月になるとオホーツク海高気圧や日本海に中心をもつ高気圧の影響で北日本や東日本を中心に気温が上がらず、ゲリラ雷雨をもたらす積乱雲が発生しにくくなりました。そのため、全体としては予想を下回る発生回数となっています。一方で、2026 年の夏は、台風や秋雨前線の停滞、暖湿流の流れ込みなどにより、線状降水帯が発生するなどし、各地で豪雨被害が発生しました。“ゲリラ雷雨”の発生回数は少なかったものの、それ以外が原因となる大雨災害が多発しました。

※1 2026 年 7 月発表 「【ゲリラ雷雨傾向 2026】2026 年のゲリラ雷雨は昨年の 25%増で約 11 万回予想 8 月中旬がピーク」

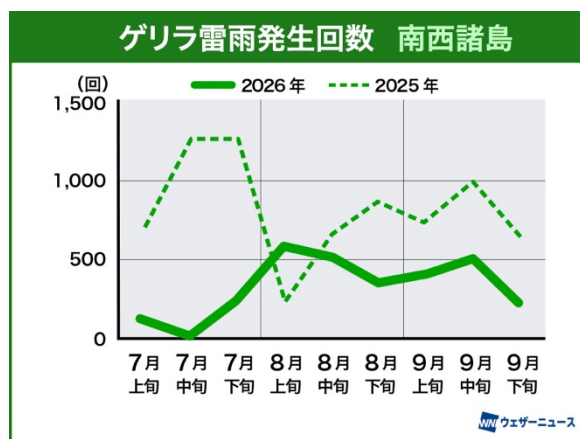
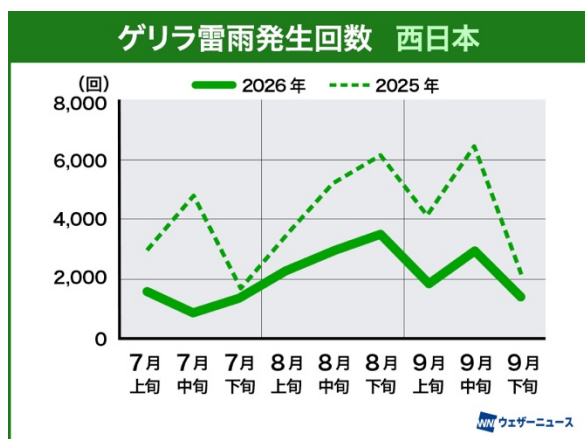
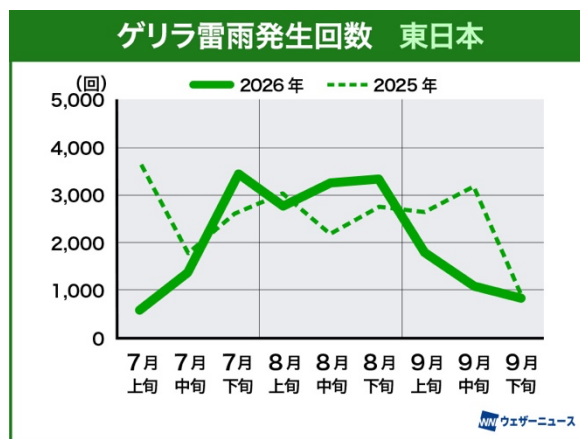
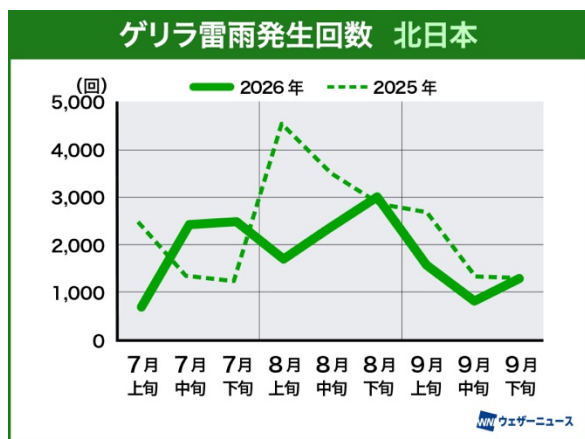
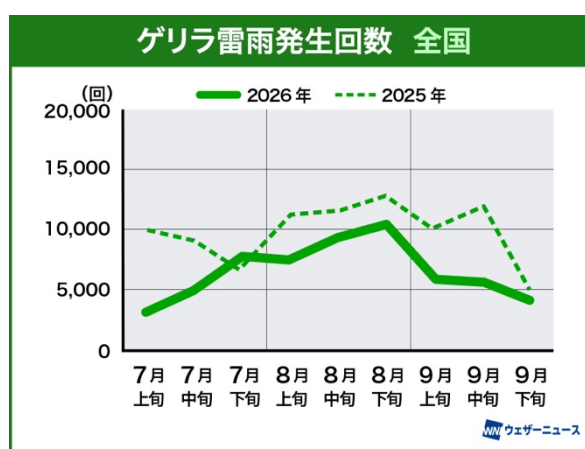
<https://jp.weathernews.com/news/56520/>

◆ 発生時期：発生ピークは 8 月下旬

月別に見ると、全国のゲリラ雷雨の発生回数は、7 月に 15,169 回、8 月に 26,620 回、9 月には 14,971 回となりました。各月を 2025 年と比較するとそれぞれ 0.59 倍、0.75 倍、0.55 倍です。

ゲリラ雷雨が一番多かったのは 8 月下旬で、2025 年の同時期と比較すると 0.8 倍程度となりました。

エリア別で見ると、北日本や西日本は 8 月下旬にピークとなり、東日本は 7 月下旬と 8 月中旬から下旬にピークとなりました。



◆ 特徴: 高気圧縁辺の湿った空気と寒気の影響で発生

2026 年のゲリラ雷雨は 2025 年よりも少なくなっているところがほとんどで、全国では 2025 年の 6 割程度の発生回数にとどまりました。

7 月の東日本から西日本は太平洋高気圧やチベット高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇しました。上空の大気の状態は安定したため、ゲリラ雷雨の発生は局地的となり、発生回数は 2025 年よりも少なくなりました。北日本の日本海側や北陸は、前線や高気圧の縁辺に沿って流れ込む湿った空気の影響を受けて、2025 年に比べて発生回数が増えているところがありました。

8 月の北日本や西日本では高気圧に覆われる日が多くなりました。そのためゲリラ雷雨の発生が抑えられ、2025 年に比べて発生回数は少なくなりました。一方で、高気圧と高気圧の間に挟まれた東日本は湿った空気が流れ込みやすく、前線が停滞しやすい状況もあったこと、また上空の寒気の南下に伴い、大気の状態が不安定になり、ゲリラ雷雨が発生し一部で大雨となった日がありました。8 月 13 日の千葉豪雨では、アメダス千葉で 1 時間に 115mm の猛烈な雨を観測し、12 時間降水量では観測史上 1 位となる 348mm を記録しました。8 月下旬には北陸で線状降水帯が発生し、アメダス氷見で 12 時間降水量が観測史上 1 位となる 317mm を記録するなど、各地で大きな被害が発生しました。

9 月は太平洋高気圧の勢力が弱まり、秋雨前線が東日本の太平洋側に停滞。このため、ゲリラ雷雨の発生回数としては 2025 年よりも少なくなりました。また、前線の影響により東日本太平洋側は 1946 年の統計開始以来 9 月で 1 位の多雨となりました。愛知県や岐阜県では線状降水帯が発生し、1 時間に 104.5mm(名古屋の 1 時間降水量極値)の猛烈な雨を観測。さらに、高気圧の縁辺に沿って進んだ台風の影響で、関東は千葉県を中心に記録的な大雨となりました。



◆ 参考資料 : 全国的なゲリラ雷雨多発日・影響の大きかった事例

日付	発生回数	要因	備考
7 月 16 日	453	台風由来の下層暖湿気の流入	局地的な強雨で群馬県太田市で道路がひざ下まで冠水。栃木県足利市では雹が降ったとの報告も。
7 月 17 日	930	下層暖湿気と地上の収束	群馬県太田市付近では記録的短時間大雨情報が発表。その他関東では東京都、千葉県などで道路冠水あり。
7 月 24 日	625	梅雨前線に向かって流れ込む下層暖湿気	新潟県新発田市付近で記録的短時間大雨情報が発表され、県内で道路冠水が発生。その他東京都でも道路冠水あり。
7 月 25 日	382	上空の寒気や下層シア、地上気温の上昇	山梨県内で雹・霰を伴った強い雨。神奈川県内も雨が強まり、お祭りが途中で中止に。隅田川の花火大会も後半は弱い雨が降った。
7 月 26 日	703	梅雨前線に向かって流れ込む下層暖湿気	関東南部から東海で強雨となり、東京都では道路が冠水。静岡県静岡市では降雹も。
7 月 27 日	1104	下層シアや地上気温の上昇	日本の広範囲でゲリラ雷雨が発生し、静岡県内では 1 時間に 87mm の猛烈な雨に。
7 月 28 日	1358	下層の暖湿気が流れ込む。気温	東海から近畿を中心に各地で激しい雷雨に。愛

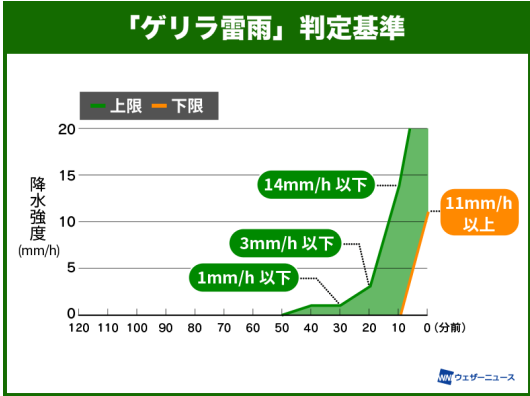
		上昇と天気図にはない前線による熱界雷	知県大府市や京都府船井郡京丹波町では降雹も。
8月1日	257	地上天気図では東北南部付近に前線があり、下層暖湿気が流れ込む 関東上空には気圧の谷	東京 23 区内を含め都内で広く局地的に強雨となり、道路が冠水。
8月3日	797	下層の暖湿気の流入、気温上昇	近畿で局地的な強雨となり、大阪府豊中市などで道路が冠水。
8月8日	1851	台風周辺の下層暖湿気や気温上昇、下層収束。東北は前線の影響	東北北部や北陸で記録的短時間大雨情報が発表。新潟県では漏斗雲が、東京都でも道路冠水が発生。
8月12日	1098	台風から変わった熱帯低気圧は日本海へ、下層の水蒸気や上空の寒気	埼玉県や富山県ではレベル 4 危険警報が発表。東京都や埼玉県、富山県で道路が冠水。
8月13日	1633	下層の水蒸気や上層の寒気、線状降水帯	令和 8 年 8 月千葉豪雨。千葉県で大雨特別警報や記録的短時間大雨情報が発表。
8月14日	1929	下層の水蒸気や上空の寒気	全国的なゲリラ雷雨。各地で道路冠水あり。前日の大規模な冠水が続いたところも。
8月20日	1648	地上昇温や上空の寒気。北日本では前線の影響で熱界雷	福島県会津では時間 100mm を観測し、記録的短時間大雨情報。札幌でも道路冠水が発生した。
8月21日	1494	下層の水蒸気、上中層の寒気、気温上昇	埼玉県内で記録的短時間大雨情報が発表。さいたま市では時間 110mm の猛烈な雨を観測し、道路冠水の報告もあった。またつくばでは漏斗雲も目撃された。その他、広範囲でゲリラ雷雨発生。
8月22日	937	下層の水蒸気、上中層の寒気、気温上昇	東京や埼玉で記録的短時間大雨情報が発表され、板橋区で時間 120mm 以上の猛烈な雨を解析。都内では道路冠水も発生し、氾濫危険警報も発表された。
8月27日	1479	東北から北陸は前線に伴う降水	北陸で線状降水帯が発生し、富山県氷見市では 12 時間降水量 317mm(観測史上 1 位)を観測。大雨特別警報が発表。大規模な冠水や河川氾濫等が発生。
9月8日	736	熱帯低気圧周辺の下層の暖かく湿った空気の流れ込みや停滞前線	愛知県や岐阜県では線状降水帯が発生し、記録的短時間大雨情報が複数回発表された。名古屋で 1 時間に 104.5mm(同地点の 1 時間降水の極値)の猛烈な雨を観測。庄内川は氾濫特別警報が発表された。新幹線などの交通機関へも影響が出た。
9月14日	1796	下層水蒸気やトラフの接近	全国的なゲリラ雷雨。秋田県や三重県、岡山県などで道路が冠水。 ※20 時ごろになるが、兵庫県たつの市に記録的短時間大雨情報あり。
9月20日	110	台風やその北側の前線に伴う降水	大型で強い勢力の台風 25 号が関東に最接近し千葉県では堤防が決壊するなど大規模な浸水被害。土砂災害が千葉県・神奈川県で発生。

注 1. 「ゲリラ雷雨」について: 本プレスリリースでは、「局地的大雨」を指す言葉として「ゲリラ雷雨」という言葉を使用しています。一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」と同義です。

注 2. 「ゲリラ雷雨」発生回数の求め方: 「ゲリラ雷雨」をもたらす雨雲・雷雲は“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴で、予測が難しいとされてきました。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(注 3)と、その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ雷雨と感じる雨の時間変化の基準値(表 1)を求め、求めた基準値をもとにゲリラ雷雨をカウントしています。

時間(分前)	閾値
0	11mm/h 以上
10	14mm/h 以下
20	3mm/h 以下
30～40	1mm/h 以下
50～120	0mm/h 以下

表 1:「ゲリラ雷雨」判定基準



注 3. 降雨報告について:スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴォー”の 5 段階で報告されます。

注 4. 雷回数求め方:気象庁の雷監視システムライデン(LIDEN:Lightning DEtection Network system)によって検知された雷回数をカウントしています。

今シーズンはゲリラ雷雨の発生回数は、関東を中心に昨シーズンより増加したところがあったものの、全国的に見ると昨シーズンより減少しました。ただ、台風や秋雨前線、線状降水帯などにより大雨となり、大規模冠水などの災害が多発した年でもありました。ウェザーニューズでは、ゲリラ雷雨をはじめとした豪雨による被害を少しでも減らすため、本調査結果を今後の対策に活かしてまいります。

◆ 参考情報:都道府県別ゲリラ雷雨発生回数 ※集計期間:7月1日～9月30日

都道府県	2026 年				2025 年(回)	過去 5 年平均(回)
	発生回数(回)	10km 四方ごとの発生回数(回)	2025 年比(倍)	過去 5 年平均比(倍)		
北海道	6602	7	0.63	0.89	10510	7433
青森県	1276	13	0.79	1.01	1621	1259
秋田県	1804	15	1.02	0.96	1762	1878
岩手県	1772	11	0.97	0.81	1830	2189
山形県	1532	17	1.03	0.94	1485	1624
宮城県	1013	14	1.00	0.87	1016	1165
福島県	2173	16	0.74	0.70	2937	3095
茨城県	704	12	0.70	0.71	1001	991
栃木県	1150	18	0.66	0.68	1734	1693
群馬県	1175	19	0.71	0.73	1662	1604
千葉県	924	18	1.15	1.04	802	891
東京都	943	54	1.22	0.99	770	951
埼玉県	641	17	0.82	0.91	777	701
神奈川県	454	17	1.55	1.07	292	425
山梨県	890	21	0.85	1.02	1044	872
長野県	2362	18	0.74	0.81	3173	2902
静岡県	1158	15	0.96	0.69	1207	1669
愛知県	986	20	1.08	0.75	912	1312
岐阜県	2110	21	0.80	0.78	2632	2702
三重県	872	16	0.62	0.57	1407	1541
新潟県	2003	15	0.83	0.81	2414	2484
富山県	892	21	0.94	0.90	946	989
石川県	697	17	0.72	0.73	967	958
福井県	710	16	0.65	0.72	1100	991
滋賀県	584	15	0.59	0.66	987	884
京都府	964	21	0.62	0.78	1554	1240
奈良県	854	25	0.65	0.71	1324	1205
兵庫県	1369	17	0.64	0.74	2123	1844

大阪府	301	16	0.75	0.69	401	435
和歌山県	796	17	0.77	0.71	1031	1124
鳥取県	714	20	0.68	0.73	1052	984
島根県	1130	17	0.62	0.70	1815	1620
岡山県	1105	16	0.59	0.73	1883	1520
広島県	1213	14	0.57	0.67	2110	1819
山口県	684	11	0.42	0.48	1619	1430
香川県	211	10	0.55	0.52	386	406
徳島県	473	12	0.48	0.54	986	876
愛媛県	787	14	0.68	0.61	1161	1292
高知県	955	14	0.46	0.53	2058	1800
福岡県	832	17	0.39	0.48	2155	1736
大分県	914	15	0.49	0.64	1873	1435
佐賀県	255	11	0.25	0.34	1024	754
長崎県	675	22	0.27	0.39	2468	1723
熊本県	1255	18	0.51	0.61	2451	2063
宮崎県	1417	20	0.50	0.62	2821	2269
鹿児島県	1412	21	0.41	0.44	3478	3210
沖縄県	3017	111	0.41	0.50	7339	5984
全国(合計)	56760	–	0.64	0.71	88100	79972